



第20回 日本消化器癌発生学会総会準備報告

この度、第20回日本消化器癌発生学会総会を平成21年11月26日(木)・27日(金)、オリエンタルホテル広島を会場として開催することとなりました。先生方にとって有意義な会となりますよう、関係者一同、鋭意準備に努めているところです。

がんの克服は現代社会における最大の悲願です。平成18年に「がん対策基本法」が制定され、それに基づいた「がん対策推進基本計画」に添って、国民・患者の視点に立ったがん対策が総合的かつ計画的に推進されようとしています。がんの中でも、消化器がんは発生頻度が高く、胃癌、大腸癌、肝癌を合わせると、全がん罹患のうち、男性では約50%、女性でも40%近くを占めており、この制圧はきわめて重要です。

日本消化器癌発生学会の基礎は、1989年に設立された日本消化器癌発生研究会であり、1997年に学会に組織改定し現在に至っています。設立当初より、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌という臓器の枠にとらわれず、同じ消化器に発生する癌として位置づけ、基礎と臨床が融合して、類似点、相違点を比較検討することが特徴です。このような観点から消化器癌の発生および進展に関する研究を行い、消化器癌の診断、治療および予防の向上、発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的としています。主な学会活動は、研究成果の発表・情報交換の場としての年一回の総会・学術集会の開催、機関誌の発行等であり、これらを通して、消化器癌の発生・進展のメカニズムの解明とともに、新しい診断・治療の展開に大きく貢献しています。

その記念すべき第20回総会・学術集会を広島でお世話させていただくことを大変光栄に存じます。特別企画「消化器癌の発生・進展とその制御—過去から未来を考える—」、日韓シンポジウム「Future perspective of gastrointestinal cancer treatment - from bench to bedside -」、レクチャーの他、各種シンポジウム、ワークショップ、ミニシンポジウム等を予定しています。特に「特別企画」においては、研究会の創設に中心的な役割を果たされた先生方からこれまでの歴史を踏まえて今後への提言をいただき、また、今後の学会を担う先生方からはこれからの消化器癌の基礎と臨床の展望を述べていただきます。

これにより、基礎研究から臨床への新しい展開がさらに進み、消化器癌制圧の大きな一歩になるものと期待されます。

学術的成果のみならず、安芸路の紅葉や瀬戸内の味覚もお楽しみいただければと存じます。皆さまのお越しをこころよりお待ちしております。



第20回日本消化器癌発生学会
会長 安井 弥 先生
(広島大学大学院医歯薬学
総合研究科分子病理学教授)

目次

第20回 日本消化器癌発生学会準備報告	1
第19回 日本消化器癌発生学会総会報告	2
平成20年度日本消化器癌発生学会理事会 議事録	3
平成21年度日本消化器癌発生学会理事会 議事録	5
第5回 国際消化器癌発生学会報告	6
役員・評議員名簿	7
編集後記	8

第19回日本消化器癌発生学会総会報告

去る2008年8月28日(木)、29日(金)の2日間、森正樹会長のもと、第19回日本消化器癌発生学会総会を別府亀の井ホテルにて開催させていただきました。

本総会では「教育」と「夢」を2つのテーマとしてプログラムを構成いたしました。これまでの学会総会のように最新の研究成果を発表し討論を行うミニシンポジウム99演題に加えて、教育に重点を置いた4つのセミナー(モーニング、ランチョン、イブニング、クロージング)と7題の教育講演を設けました。さらに夢を与える目的で、中学生・高校生・医療従事者のそれぞれを対象としたサテライト企画を設けました。

セミナーでは、癌幹細胞、ゲノム・エピゲノム解析など癌研究の各分野の第一人者の講師をお招きし、ご講演いただきました。また、再生医療や胚の左右決定のメカニズムといった癌研究以外の分野から、さらには宇宙の夢といった医学以外の分野からもご講演いただき、たくさんの参加者からご好評をいただきました。教育講演では、早期大腸癌の超拡大内視鏡から癌の分子標的療法といった、最新の診断・治療に関する詳細な講演を7名の講師よりいただきました。こちらも大変好評で、朝早くから夜遅くまで多くの先生方が参加され、熱心に聴講されていました。

ミニシンポジウムでは計99演題を採択し、最先端の研究成果を発表していただくとともに活発な討議がなされました。最優秀賞は「大腸癌におけるmicroRNA-34b/cのエピジェネティックな不活性化」鈴木拓先生(札幌医大内科学第一講座)、奨励賞は「Pancreatic Cancer Cell Line Derived SP Cells Predominantly Respond to TGF-beta-Mediated Invasion and Epithelial to



Mesenchymal Transition」樺嶋彩乃先生(慶応大消化器内科)、「胃癌の胃型・腸型形質発現から見た組織発生—除菌後発生例および異時性多発例—」溝下勤先生(名古屋市立大消化器代謝内科学)が受賞されました。

中学生へ夢を与える企画として「なぜだろう?が未来を楽しくする!」と題し、再生医療、化学、宇宙、生物学、教育、各分野のエキスパートから、それぞれの立場で中学生に向けて夢のある話題を提供していただきました。高校生へ夢を与える企画として「Be ambitious! 夢を持とう」と題し、新進気鋭の5名の外科教授に大分県下5校に出向いていただき、ご自身の夢を語り、高校生を啓発していただきました。また、医療従事者へ夢を与える企画として「南こうせつさんのライブショーを設けました。」と題し、南こうせつさんのライブショーを設けました。予定時間を大幅に延長し1時間半にも渡って癒しの楽曲・愉快的トークをご披露いただき、われわれ医療従事者を癒し、励ましていただきました。

学会の運営には至らない点が多々あったとは思いますが、ご容赦いただければ幸いです。皆様のご指導・ご協力によりまして、大きな支障を生じることなく会の運営ができましたことを重ねて感謝申し上げます。皆様の今後のご研究の進展とご活躍を、そして学会のさらなる発展を祈念し、ここに学会報告のご挨拶とさせていただきます。

第19回日本消化器癌発生学会総会
会長 森 正樹



南こうせつさんを囲んで

平成20年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日 時：平成20年8月27日(水) 15:30～17:00
場 所：別府亀の井ホテル コスモスの間 (3F)
出席者：伊東文生、井藤久雄、岡 正朗、宮崎耕治、桑野博行、江角浩安、小西文雄、小俣政男、上西紀夫、森 正樹、前原喜彦、田尻 孝、平川弘聖、平田公一、門田守人、安井 弥(敬称略)

1) 理事長挨拶

上西理事長から挨拶があった。

2) 議事録署名人名指

井藤久雄理事、岡正朗理事に依頼し、了承を得た。

3) 議事録承認

・前回の議事録が承認された。
・本年度より理事となった伊東文生理事、桑野博行理事、宮崎耕治理事よりそれぞれ挨拶があった。

4) 庶務報告

新事務局移転後の会員の動向が次のとおり報告された。
2008年6月から8月までに新入会64名、退会25名の増減があり、2008年8月25日現在の会員数は794名である。

5) 会則委員会報告

持ち回りで開催された会則委員会において、監事の増員、理事長の任期延長、学会事務局の改正点が承認された旨、上西理事長より報告があった。

6) 役員選考委員会報告

① 役員について

・田尻孝理事の定年にともない名誉会員として、砂川正勝評議員、三木一正評議員、棟方昭博評議員の定年にともない特別会員として、引き続き本学会を支援していただくこととなった。また、引き続き評議員会および総会で承認を得ることとなった。

・次期会長に安井弥理事が承認された。

・次次期会長に桑野博行理事が推薦された。また、引き続き評議員会および総会で承認を得ることとなった。

・門田守人理事より、本年度から監事へと変更したい旨申し出があり、承認された。

② 理事選考について

・規約上、定数に余裕のある理事および監事について、新規就任を来年度以降検討することが報告された。

・理事については、特に現在少数である外科分野の新規就任を来年度以降検討することが報告された。

③ 評議員選考について

・新評議員として、瀬戸泰之氏、高森啓史氏、植原啓之氏、別府透氏、森田勝氏、吉松和彦氏、渡邊雅之氏の7名を推薦した。引き続き評議員会および総会で承認を得ることとなった。

7) 編集委員会報告

Oncology について

・2007年度の投稿状況について、3題が掲載され、3題がreject、1題が著者修正待ち、1題が掲載予定であることが報告された。

・今後の契約について、上西理事長とカルガー社の討議結果が報告された。

(1) 提携基本料(会員特価購読料)

① 2008年は年間CHF10,400(約1,040,000円)とし、評議員(104名)へのOncology誌オンライン版の無償提供も含む。

② 一般会員の購読希望者には、オンライン版を年間購読料CHF42(約4,200円)で提供する。

申込みは直接出版社にて受け付けるものとする。

(2) 査読システム

学会または投稿者が査読者の一部を推薦または指名をできるものとし、以下の内容で調整中である。また、査読システムについては、今後もさらなる検討が必要であることが確認された。

① 投稿者は学会員であることを明記して直接出版社に投稿する。

② 出版社は学会の代表者(Editorial Representative)に会員からの投稿を通知する。

③ 学会はその論文に対する査読者(1~2名)を選択・指名して出版社に連絡する。

④ 以降の査読~可否判断に至るプロセスは通常の投稿の場合と完全に同様とする。

(3) 頁超過料金無償サービス

・会員はその投稿論文が規程の頁数(3頁以内)を超過した場合でも、超過料金を請求されないものとする。但し年間1回までのサービスであり2回以上の投稿掲載の場合は2回目以降には通常の超過料金(超過1PにつきCHF290)が発生する。

本サービスについては投稿者が会員である旨を投稿時に明記することが前提である。

(4) その他

・2~3年間に1度学会主導での別冊の発刊(制作発注)を希望する。費用についてはその都度見積るものとする。

8) 国際委員会報告

① 国際消化器癌会議について次のように報告された。
・第5回会議は、2008年8月31日から9月3日まで、英国のOxfordにて開催される。また、今回は、開催時期との兼ね合いもあり、日本からの参加登録者は5名にとどまっている。

・第6回は、2010年に、Raymond N. DuBois(MDAnderson Cancer Center Vice President)がチェアマンとなって開催する予定である。詳細は、第5回会議後に発表される。

② 国際消化器癌学会(ISGC)の運営について次のように報告された。

・本学会の評議員は、自動的にISGCの会員に登録され

ることとなっているが、今後のさらなる会員増に向けて、会員登録情報の整理や、入会に際してのメリットを再検討する必要があることが議論された。

③ ISGCとしてオフィシャルジャーナルを発行する件について、Oncologyを、JSGC・ISGC双方のオフィシャルジャーナルとする方向で検討することとなった旨、報告された。

9) G-Project委員会報告

① 進捗状況が次のとおり報告された。

・昨年度のG-Project委員会において、胃癌・大腸癌におけるp53、VEGF-A、VEGF-Cの3因子をTNM-G分類候補として選定し、その可能性の検証を開始することが決定された。

・実施内容ならびに倫理性に関しては、昨年度の倫理問題検討委員会において審議の上、了承が得られたが、病理組織を提供する5施設においても、各学内倫理委員会の承認を得た後で実施することになり、承認を得た施設から、順次、症例抽出、標本作製ならびに標本の広島大学への郵送、データ登録を進めている。

・現在まで、胃癌160症例、大腸癌140症例の標本、データ集積が完了し、広島大学分子病理学教室において、p53およびVEGF-Aの免疫組織染色を終了し、染色結果を得た。VEGF-Cに関しては、染色用1次抗体が到着次第染色の予定である。

・染色は、0：全く染色されなかった症例、1+：1～10%の腫瘍細胞が染色された症例、2+：11～50%の腫瘍細胞が染色された症例、3+：51～100%の腫瘍細胞が染色された症例として判定した。

・10%以上の腫瘍細胞が染色された症例を陽性とし、染色結果とp53、VEGF-A発現有無と再発との関連を解析した。

② 今後の研究実施計画について次のとおり報告された。

・まだ予定症例（胃癌・大腸癌の再発・無再発各々100症例、合計400例）には達しておらず、またVEGF-Cの結果待ちであるが、現在までの結果では、p53、VEGF-A

に関しては、これまでの論文における発現陽性症例での予後不良との関連の発表から予想されたような有意な結果は得られていない。5年生存率で概ね20～30%の差の報告エビデンスの検証には至っていない。

・症例数、症例抽出方法、データ解析方法について検討する必要があるが、まずは症例数を増やし、またVEGF-Cの解析結果を待って、今後の方向性を決定する。

③ その他

本プロジェクトにかかる標本作製費、郵送費は、随時学会事務局へ請求していくことが確認された。

10) 倫理問題検討委員会報告

上西理事長より、今年度については特に緊急の検討議題はなかった旨が報告された。

11) 在り方委員会報告

上西理事長より、委員会は翌日開催される予定であることが報告された。

12) 財務委員会報告

・平成19年度決算について報告があり、承認された。

・平成20年度予算案について説明があり、承認された。

13) 第18回学会総会(2007年)報告

第18回日本消化器癌発生学会総会は、平成19年11月8日から9日にかけて北海道厚生会館ウエルシティー札幌において開催され、盛況であった旨が報告された。

14) 第19回学会総会(2008年)報告

第19回日本消化器癌発生学会総会は、平成20年8月28日から29日にかけて大分県別府市、亀の井ホテルで開催される予定であることが報告された。

15) 第20回学会総会(2009年)準備報告

第20回日本消化器癌発生学会総会は、平成21年11月26日から27日にかけて広島県広島市、オリエンタルホテル広島で開催される予定であることが報告された。

16) 第21回学会総会(2010年)について

第21回日本消化器癌発生学会総会は、平成22年に群馬大学の担当で開催される予定であることが報告され、桑野博行理事より挨拶があった。

平成21年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

場 所：大阪国際会議場 会議室806

日 時：2009年7月17日(金) 12:00～14:00

出席者：伊東文生、上西紀夫、桑野博行、平川弘聖、宮崎耕治、森 正樹、門田守人、安井 弥、江見泰徳(前原喜彦代理)、野村幸世(事務局幹事)(敬称略)

1. 前回理事会議事録承認・議事録署名人名

前回議事録が承認された。また、今回の理事会議事録署名人名について、伊東理事・平川理事に依頼し、了承を得た。

2. 第21回日本消化器癌発生学会総会について

次期会長である桑野理事より挨拶があり、第21回日本消化器癌発生学会総会は2010年11月18日から19日にかけて、長野県北佐久郡の軽井沢プリンスホテルで開催される予定であることが報告された。

3. 庶務報告

学会事務局より、2008年9月から2009年5月までに新入会5名、退会35名、逝去1名の増減があり、2009年5月31日現在の会員数は763名であることが報告された。また、2009年5月31日現在の一般会員ならびに評議員の会費納入率は、それぞれ51.5%、94.5%であることが報告された。

4. 役員を選出について

・次期理事長について

本年度総会をもって上西理事長の任期が満了となるにあたり、理事会として次期理事長に前原理事を推薦することが全会一致で承認された。

・役員および評議員について

久保田理事のご逝去および嶋田敏評議員の退会に伴い、理事数が17名から16名へ、評議員数が113名から111名へと変更があったことが報告された。

・評議員選考について

理事会として、新評議員に田中信治会員、調憲会員の2名を推薦することが承認された。

・新理事について

新理事候補を次回の役員選考委員会に諮る必要のあることが確認され、候補者について検討がなされ、国立がんセンター研究所の牛島俊和先生、岐阜大学腫瘍外科の吉田和弘先生が推薦され、次回の学会総会で決定することとした。

5. 平成20年度決算案および平成21年度予算案について

・平成20年度決算案および平成21年度予算案について事務局より中間報告があり、次回理事会までに最終案をまとめることが確認された。

・企業のパナー広告について

昨年度の申込状況が報告され、今年度も各理事、監事より積極的に企業へ依頼し、最終的に理事長からも働きかけることが確認された。

・長期滞納者について

会費を2年以上滞納している会員の扱いを検討するため、所属施設別の滞納者一覧を作成して各施設の評議員に、長期滞納者の所属等の最新データ作成にご協力いただく必要があることが確認された。また、会費請求の際、前年度未納者には2年分の会費を確実に請求し、特に一般会員の納入率を上げていくことも確認された。

6. 国際学会について

安井理事より、次のように報告された。

・第5回国際消化器癌発生学会は、2008年8月31日から9月3日まで、Prof. Nicholas Wrightを会長として英国のオクスフォードで開催された。

・第6回国際消化器癌発生学会は、2010年9月9日から11日まで、Prof. Raymond N. DuBoisを会長として米国のテキサス州ヒューストンで開催される予定である。

7. Oncologyについて

Oncologyの投稿状況について、2008年度の投稿数は4件であり、うち1件が掲載、3件がリジェクトされたことが報告された。また、現行の査読システムがうまく機能しているかどうか、カルガー社と早急に打ち合わせる必要のあることが確認された。

8. G-Projectについて

平川理事より、G-Projectの進捗状況について、以下のとおり報告された。また、大腸癌の症例数が少ないので、追加症例を増やす必要のあることが確認された。特に倫理審査委員会検討中の東京大学に、さらなるご尽力いただくこととなった。

1) 昨年度の総会時G-Project委員会以降、広島大学分子病理学教室安井教授、大上先生にご尽力いただき、胃癌160症例、大腸癌140症例のVEGF-Cの免疫染色を行って頂いた。

その解析結果、胃癌、大腸癌いずれにおいてもVEGF-C染色と、再発・無再発との有意な相関は認められず、本projectにおいて当初G因子候補としていた、p53、VEGF-A、VEGF-Cいずれにおいても、生存率で概ね20～30%の差が認められるといったこれまでの報告でのエビデンスの検証結果は得られなかった。

2) 目標症例数は、胃癌、大腸癌各200例であったが、その後も胃癌：40例、大腸癌：60例が未到着であり、今後未着施設へ再度依頼するか、あるいは既に倫理委員会承認済みの施設へ症例数の追加を依頼するか検討が必要。

3) これまで、広島大学において当初のp53、VEGF-A、VEGF-Cの3項目以外に、RegIV、GW112、claudin18、MMP-7の4項目についての染色を行って頂いており、これらの中では胃癌症例でMMP-7のみにおいて、陽性で再発例が有意に多い結果であった。しかし、MMP-7はこれまでの論文報告に基づいたエビデンスの結果から候補因子として抽出したのではなく、本因子をTNM-G

分類のG 因子候補とするか、ならびに他の追加候補因子の選定を含め検討が必要と考えられる。

9. 第20回日本消化器癌発生学会総会について

大会長である安井理事より、第20回日本消化器癌発生学会総会は、2009年11月26日から27日にかけて広島県広島市のオリエンタルホテル広島で開催される予定であり、準備を進めていることが報告された。また、7月16日現在の登録演題数は42題であること、演題募集期間を7月24日まで延長する予定であることが報告された。

10. 第22回日本消化器癌発生学会総会について

2011年に開催する第22回日本消化器癌発生学会総会について、会長に宮崎理事を推薦することが確認された。

11. その他

今回の理事会は2009年11月25日、第20回総会の前日に開催する予定であることが確認された。また、次回理事会までに引き続き新評議員の推薦を募っていくことが確認された。

第5回 国際消化器癌発生学会報告

理事長 上西 紀夫

国際消化器癌発生学会 (International Society of Gastroenterological Carcinogenesis; ISGC) による第5回 International Conference on Gastroenterological Carcinogenesisが、2008年8月31日～9月2日の3日間、英国オックスフォード大学内のカンファレンスセンターで開催された。会長は英国病理学会の重鎮であり、Barts and the London School of Medicine and Dentistryの学長のSir Nicholas Wright教授である。

本国際会議は、第1回が1996年に広島大学病理学第一の田原榮一教授の主宰により広島で開催され、世界16カ国から700名近い参加者を得て大成功を納めたのが始まりである。

第2回は、1998年3月ドイツウルム大学外科のH.G.Beger教授が地元のウルムで開催され、第3回は2000年にロンドンで開催される予定であったが、会長の病气やSARS、ユーロ切替えなどが重なり延期を余儀な

くされた。そこで、第3回ISGCは2004年8月に札幌にて、第15回日本消化器癌発生学会(会長今井浩三札幌医大第一内科教授)と併催の形で著者がお世話をさせていただき、第4回は、米国MD Anderson Cancer CenterのLevin教授が会長として8月にハワイで開催され、今回、ようやく英国ロンドンで開催されることになった。

今回の学会の主なテーマは、Cancer Stem CellとCancer Chemopreventionであった。とくに前者については、胃癌モデルにおけるbone marrow derived stem cellや大腸発癌におけるcrypt内のstem cellについての発表と熱心な討論が行われた。会長講演は"Field cancerization in the gastrointestinal tract"の題目で、病理形態学および分子生物学的解析結果に基づいた理論が展開された。

今回は、国内での第19回日本消化器癌発生学会が開催された直後のため、日本からの参加は少なかったが、100名を超える参加者がありレベルの高い発表で議論は盛り上がった。学会中の理事会において、今回の第6回は、2010年にMD Anderson Cancer CenterのRaymond DuBois教授が地元のヒューストンで、第7回はやはり米国のRustigi教授が会長として開催することが決定した。また、新たな理事として海外からDr. Tim Wang、Dr. Kay Washington、Dr. Emad El-Omar、Dr. Rick Peek、Dr. Joseph Sun、Dr. Han-kwan Yang、わが国からは森正樹教授(阪大)、吉田和弘教授(岐阜大)が推薦され、承認された。引き続き、わが国および海外からの素晴らしい発表と、研究成果の臨床への応用を期待したい。



参加者の集合写真
前列左から2番目が、会長のSir Nicholas Wright教授

役員名簿

理事長 上西 紀夫

理事 (16名)

- 井藤 久雄 伊東 文生 今井 浩三
江角 浩安 岡 正朗 上西 紀夫
桑野 博行 小西 文雄 菅野健太郎
立松 正衛 平川 弘聖 平田 公一
前原 喜彦 宮崎 耕治 森 正樹
安井 弥

会長 安井 弥

次期会長 桑野 博行

監事 (3名)

- 愛甲 孝 小俣 政男 門田 守人

事務局幹事 (2名)

- 清水 伸幸 野村 幸世



名誉会員・特別会員名簿

名誉会員 (15名)

- 大原 毅 (名誉理事長)
杉町 圭蔵 (名誉理事長)
青木 照明 内田 雄三 小川 道雄
金澤暁太郎 北島 政樹 佐治 重豊
杉村 隆 曾和 融生 田原 榮一
田尻 孝 寺野 彰 二川 俊二
三輪 晃一
恩田 昌彦 (故) 下山 孝 (故)
長町 幸雄 (故) 長興 健夫 (故)
磨伊 正義 (故)

特別会員 (26名)

- 朝倉 均 磯野 可一 岩永 剛
岡島 邦雄 冲永 功太 笠原 正男
木村 健 小西 陽一 斉藤 利彦
砂川 正勝 炭山 嘉伸 曾我 淳
高橋 俊雄 竜田 正晴 比企 能樹
平山 廉三 廣田 映五 藤田 力也
船曳 孝彦 三木 一正 武藤徹一郎
武藤 泰敏 棟方 昭博 安富 正幸
山川 達郎 渡辺 敦光
馬場 正三 (故)

評議員名簿

(111名)

- 愛甲 孝 兼松 隆之 嶋本 文雄 仲田 文造 松原 長秀
浅尾 高行 上西 紀夫 清水 伸幸 中森 正二 真船 健一
油谷 浩幸 川口 実 下山 省二 中山 淳 源 利成
池口 正英 川又 均 城 卓志 名川 弘一 峯 徹哉
伊藤喜久治 北川 雄光 白水 和雄 夏越 祥次 三森 功士
井藤 久雄 北台 靖彦 菅井 有 榑原 啓之 宮崎 耕治
伊東 文生 工藤 進英 菅野健太郎 西野 輔翼 宮地 和人
今井 浩三 國安 弘基 瀬戸 泰之 西森 英史 森 正樹
牛島 俊和 久保 正二 高橋 豊 西山 正彦 森田 勝
内田 英二 熊谷 一秀 高森 啓史 野口 剛 門田 守人
宇都宮 徹 倉本 秋 田久保海誉 野村 幸世 安井 弥
江上 寛 桑野 博行 竹之下誠一 秦 史壮 八十島孝博
江角 浩安 高後 裕 立松 正衛 服部 隆則 山口 明夫
太田 哲生 後藤 満一 田中 紀章 馬場 秀夫 山本 博幸
大平 雅一 小西 文雄 田渊 崇文 平川 弘聖 横崎 宏
岡 正朗 今野 弘之 塚本 徹哉 平田 公一 吉田 和弘
緒方 裕 澤田 鉄二 辻谷 俊一 藤井 茂彦 吉松 和彦
小川 健治 塩崎 均 藤 也寸志 藤村 隆 渡邊 聡明
落合 淳志 汐田 剛史 徳永 昭 藤盛 孝博 渡邊 雅之
小俣 政男 篠村 恭久 富田 尚裕 別府 透
掛地 吉弘 島田 信也 豊田 実 前原 喜彦
加藤 俊二 島田 光生 内藤 善哉 松川 正明
加藤 広行 嶋田 裕 永井 秀雄 松倉 則夫

(50音順)

編集後記

本年、安井 弥教授にお世話頂き広島にて開催される総会で、本学会も第20回目を迎えます。回数も『20』と、きりの良い数字ですが、広島は、1996年に田原榮一先生が第一回国際消化器発癌会議を主催して下さった、本会にとってたいへん意味深い都市でもあります。また、この国際会議を契機に、本会は研究会から学会へと発展致しました。本年の総会期間中に時間を見つけて、13年前に会議が行なわれた平和記念公園周辺を散策し、本会の歴史とともに、自分と周囲の変化についても思いをめぐらしてみたいと楽しみにしております。

20年前には考えもしなかったような、癌に関する膨大な知見が集積されつつあり、私共も、医学系研究科内だけでなく、工学部や薬学部、先端研究所などと連携をとって新たな治療戦略を模索し始めております。一方で、目の前にいる患者さんを治したいという思いは昔と変わらないように思います。この思いが無ければ、医学の進歩はあり得ないと考えており、ここだけは決して変わってはいけない部分だと思っています。

ところで、今、不思議に思うことがあります。一昨年、昨年ともに編集後記には地震などの自然の力の大きさを痛感させられる出来事があった事を書いております。まさにこの文章を書いている本日も、日本時間早朝に南太平洋でマグニチュード8.3の、さらに、夕方にはスマトラ島でマグニチュード7.9の大地震が発生しました。国内では政権交代で大きな変化があるようにも思っていたのですが、やはり、自然の偉大さの前には些細な事なのかなと考えさせられてしまいました。自然の大きな歯車の中で、この瞬間に自分がなすべき事は何かと、昨年一昨年同様に自答自問する機会を与えてくれた、編集後記をしたためた一日でありました。

学会事務局幹事 清水 伸幸

発行 日本消化器発癌学会事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F 株式会社クバプロ内
TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837
発行者 日本消化器発癌学会
編集 総務委員会
印刷 福々印刷株式会社



ティーエスワンの顆粒剤ができました!

フッ化ピリミジンの新分類

DIF

DPD Inhibitory Fluoropyrimidines

UFT, TS-1はDIFです。



代謝拮抗剤
ユ-エフティ。カプセル100mg
ユ-エフティ。E顆粒20%

創薬：処方せん医薬品* テガフル・ウラシル 配合カプセル剤
薬価基準収載 薬価基準収載
テガフル(腸溶)・ウラシル配合顆粒剤

代謝拮抗剤
ティーエスワン。カプセル20・25 新発売
ティーエスワン。配合顆粒 T20・T25

創薬：処方せん医薬品* テガフル・キメラシル・
薬価基準収載 薬価基準収載
オテラシルカリウム配合カプセル剤・顆粒剤

※注意—医師等の処方せんにより使用すること
効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元  **大鵬薬品工業株式会社**
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL. 0120-20-4527
<http://www.taiho.co.jp/>

2009年6月作成